

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人小田泰三上告趣意第一点について。

所論の昭和二三年最高裁判所規則第九号四条二項の規定が、所論憲法一四条の規定に違反しないものであることは、当裁判所昭和二三年（れ）第二一一八号、同二四年六月一三日大法廷判決（判例集第三巻第七号一〇〇三頁参照）の趣旨に徴して明らかであるから、論旨は理由がない。

同第二点について。

所論原審判決書に「検事 A 関与」とある記載は、刑訴規則五六条二項の規定にいう「公判期日に出席した検察官の官氏名の記載」の趣旨であるから論旨は採るを得ない。

同第三点について。

所論は刑訴四〇五条所定の適法な上告理由にあたらぬ。

そして記録を精査するも、本件につき刑訴四一一条を適用すべきものとは認められない。

よつて、刑訴四〇八条に従い、裁判官全員一致の意見によつて、主文のとおり判決する。

昭和二七年一月一日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	栗	山	茂
裁判官	小	谷	勝 重
裁判官	藤	田	八 郎
裁判官	谷	村	唯 一 郎